

平成27年度 やまなし エコ通勤・エコ通学 トライアルウィーク 実施状況



1. 参加申し込み状況

申し込みと現在の通勤状況

申し込み	従業員数	マイカー通勤
14	5,425	4,070

- ・エコ通勤トライアルウィークへの参加申し込みのあった事業所数は14事業所。
- ・参加事業所に勤務する5,425人のうち4,070人(75.02%)が現在マイカーで通勤。

ステップ1 エコ通勤PR取り組み状況

メール等	掲示等	会議等	個別	その他
8	9	8	6	1

- ・エコ通勤のPRは14箇所全ての事業所で実施。
- ・PRの方法は、各事業所で、効果的な方法を選択してもらい、内訳は

「メール・イントラネットなどで案内」	8事業所
「掲示物・職場内回覧などで周知」	9事業所
「会議・朝礼などで呼びかけ」	8事業所
「マイカー通勤者に個別に働きかけ」	6事業所
- ・「その他」の1事業所は「パンフレットの配布」によるPRを実施。

ステップ2 エコ通勤転換予定者数

徒歩	自転車	公共交通	その他	計
105	186	165	69	525

- ・期間中は参加事業所のマイカー通勤者4,070人のうち、525人(12.90%)がエコ通勤にチャレンジする予定。
- ・エコ通勤の種別ごとの転換者数は

「徒歩通勤にチャレンジ」	105人(20.00%)
「自転車通勤にチャレンジ」	186人(35.43%)
「公共交通通勤にチャレンジ」	165人(31.43%)
「その他のエコ通勤にチャレンジ」	69人(13.14%)
- ・「その他のエコ通勤」の69人は「マイカーによる乗り合わせ通勤」を実施予定。

ステップ3 ワンコインエコチケット配布数

チケット計	実人数
1,070	247

・配布対象者別内訳

	チケット	実人数
公共交通にチャレンジ	698	61
自転車通勤にチャレンジ	372	186
計	1,070	247

- ・今年度は、自転車通勤にチャレンジする方に雨天対応用として1日分のエコチケットを配布。

期間中、1乗車100円で路線バスを利用可能な「ワンコインエコチケット」の配付枚数は1,070枚。

うち、バス通勤にチャレンジする方の分が698枚、自転車通勤にチャレンジする方の雨天のバス対応分が372枚

- ・エコチケットを配付する実人数は247人で、うちバス通勤にチャレンジする者が61名、自転車通勤にチャレンジする方が186名

2. 期間中の取り組み状況

バス事業者からのエコチケット利用状況

3月9日	28
3月10日	40
3月11日	52
3月12日	4
3月13日	3
3月14日	41
3月15日	35
合計	203

- ・期間中のワンコインエコチケットの利用数は203枚で、配付数1,070枚の18.9%。
- ・エコチケット利用率が低かったが、自転車通勤にチャレンジする方に一日配布したチケットが利用されなかったことが大きな要因と考えられる。

参加事業所からの実績報告

	徒歩	自転車	公共交通	その他	計
3月9日	66	31	64	25	186
3月10日	73	37	61	48	219
3月11日	78	37	85	53	253
3月12日	15	11	34	0	60
3月13日	17	6	28	1	52
3月14日	60	24	74	36	194
3月15日	74	52	69	38	233
合計	383	198	415	201	1,197

- ・期間中にエコ通勤に取り組んだと報告のあったのは延べ1,197名。
- ・参加申し込みのあった525人が、期間中に平均2.3回のエコ通勤を実施した。

交通手段ごとの実施率を比較すると、徒歩が3.6日/人(383日/105人)、自転車が1.0日/人(198日/186人)、公共交通が2.5日/人(415日/165人)、その他が2.9日/人(201日/69人)

参加者からの代表的な意見

- ・肯定的な感想
 - ・環境や健康のためにエコ通勤は有効な取り組みだと感じた。
 - ・交通渋滞の影響を受けることなく、イライラしない通勤ができた。
 - ・風景を見ながら通勤でき、良い気分転換となる。
 - ・移動時間を読書等有効に活用できるメリットがあることがわかった。
 - ・自転車通勤は健康にも良く、環境にも優しいので続けたい。
 - ・年に数回エコトライアルウィークを行っても良いのではないか。
- ・否定的な感想
 - ・通勤で使えるバスの便数が少ない。特に夜の便が少なく、利用しにくい。
 - ・公共交通利用の場合、マイカーよりも時間がかかりすぎ、時間に追われてしまう。
 - ・バスが時間どおりの運行とならず、通勤に使いにくい。
 - ・自宅から最寄の駅・バス停までの距離が遠く、車に比べて不便。
 - ・エコチケットで乗車できる期間は良いが、費用負担が大きく、毎日の利用は難しい。
- ・転換への課題
 - ・公共交通機関の利便性(朝・夜便数、運行時間の拡張)の向上がないと、現状ではマイカーからの転換は難しい。
 - ・勤務地・居住地付近に公共交通機関がなく利用が困難。中心市街地以外は公共交通への転換は困難では。
 - ・自転車あるいは徒歩通勤だと、車道と歩道の区別がない道路では非常に危険。インフラの整備が急務では。
 - ・改めて公共交通を利用すると、料金の高さがネックとなる。
 - ・鉄道とバスの接続が良くなれば公共交通による通勤がしやすい。